

持ち歩きながら使える方向探知受信機で車載運用も可能な形状

専用の方探アンテナと組み合わせると電波の到来方向と受信信号強度を表示。

発信器捜索(遭難救助・徘徊管理・脱走ペット動物等捜索)に便利。

1. 仕様

方位表示 : 分解能45度(8分割)、

表示所要時間 : 約50ms/100Hz・・・専用方探アンテナと組み合わせ
ロッドアンテナやホイップアンテナ使用時は電界強度表示のみ有効

受信周波数 : 80~650MHz, 862~950MHzで御指定の周波数
(特定の条件では受信表示できない場合があります)

受信感度 : 約-120dBm~-70dBmと-80dBm~-30dBmの切替

受信信号音 : CW/SSB復調出力

電源電圧 : 単三乾電池4個、外部電源 : 9~12V(DC)

消費電流 : 約70mA (単三アルカリ電池で連続約10時間使用可)

外形寸法 : 140×77×27mm

本体重量 : 約200g(電池実装時約300g)

使用環境温度 : -20~+60℃

オプション機能

多チャンネル仕様 : コントローラ(DF1-CNT1)を接続すると5チャンネル
か31チャンネル切り替え可能。

受信帯域幅 : コントローラ(DF1-CNT1)を接続して、チャンネルスイッチを
押しながら電源を入れると、受信帯域幅が9kHz
に切替できる(通常受信帯域幅は18kHz)

2. 付属品

ロッドアンテナ-1個、イヤホン-1個、ACアダプタ(12V)-1個、外部電源接続用コード-1個、単三乾電池-4個

3. 使用方法

(1)背面の電池フタを下側へずらして開き、単三乾電池を4個装着。

ACアダプタ(12V)を接続すると連続運用でき、その時、充電電池を装着してあると充電します。

(2)上面のボリュームツマミを時計方向へ回すと電源が入る。

信号を受信すると信号強度表示LEDが点灯、ボリュームを回して聞きやすい音色に合わせます。

(3)背面のスイッチ-1をONにすると上面のボリュームツマミを反時計方向へ回してOFFにしても電源が切れません。

ボリュームを回しても電源が切れないようにしたい場合にONにします。(使わない時はOFFにする)

(4)背面のスイッチ-2をONにすると、電源投入、信号の変化、チャンネル表示等の場合に電子音を出力。

(5)背面のスイッチ-3は、受信信号の音量が変わる。

(6)背面のスイッチ-4は感度切替で、ONにすると高感度(遠距離用)、OFFにすると低感度(近距離用)。

(7)上面のBNCコネクタへアンテナを接続、電源投入時にアンテナ端子が無接続かロッドアンテナの場合は方向表示しません。
専用方探アンテナを後で接続した時は、電源を入れ直すと方向表示します。

(8)専用方探アンテナの矢印方向が、受信機の方向表示で上側を表示するように出荷調整してあります。
使用環境によっては実際の電波到来方向とずれる場合がありますので、所在が分かっている発信器で確認して方位のずれを受信機の配置角度で補正して使用して下さい。

手持ちで使用する時は、アンテナを持つ角度や高さで表示方向が変わることがあります。

ご自身の体から出来るだけ離して高く掲げると比較的表示誤差が少なく、感度良く使えます。

室内では壁による反射等で方向表示が乱れることが多いので、広い屋外で確認して下さい。

(9)受信信号が約14dB強くなると、信号強度表示の点灯するLEDが1つ増える。

障害物が無い地上では、距離が約半分近づくとLEDの点灯が1つ増えます。

(10)専用方探アンテナを接続すると、1秒間に約100回の頻度で受信信号の到来方向を表示し続けます。

(11)赤LED点灯の強い信号は方向表示が異常になることがあります、その時は感度を下げて下さい。



- (12) 受信信号が無くなるか急激に弱くなると、その直前の方向と信号強度をロックして約1秒間表示します。
この機能により、短時間の送信信号を受信した時の状態が見やすくなっています。
特定の場所や信号の強さが大きく変化する場合は、この機能で頻繁に表示ロックすることがありますが故障ではありません、場所を変えて受信してみてください。

4. 多チャンネル仕様…オプション

- (1) コントローラ(DF1-CNT1)を接続すると音声出力が内蔵スピーカからコントローラのイヤホン端子へ切り替わる。
イヤホンをコントローラへ接続して操作して下さい。電源を入れると、まず1CHを受信します。
- (2) コントローラのスイッチを短時間(0.5秒以内)押しと信号強度LEDが約1秒間チャンネル表示へ変わる。
- (3) 1CHを受信中は1番下の緑LEDが点灯、2CHは2番目のLEDだけ点灯～5CHは1番上の赤LEDだけ点灯。
- (4) コントローラのスイッチを押し続けると約1秒毎に1つずつチャンネルが繰り上がる。(チャンネル操作中は電子音が鳴動)
- (5) 目的のチャンネルでスイッチOFFにすると、その後1秒以内に通常の実受動作へ戻る。
- (6) 31チャンネル仕様では5個のLEDで2進数の00001～11111で表示、その他は5チャンネル仕様と同じ動作。
- (7) チャンネルスイッチを押した状態で電源を入れると、受信帯域幅を狭くできる。
チャンネルスイッチONのまま電源が入ると受信帯域幅8kHz、チャンネルスイッチOFFで電源が入ると帯域幅19kHz。
コントローラ(DF1-CNT1)を接続してチャンネルスイッチを押しながら電源を入れると受信帯域幅が9kHzに狭くなる。
- (8) チャンネル設定後に受信機へ直接イヤホンを差し込むと一瞬チャンネル表示に変わり引き続きそのチャンネルで受信する。
イヤホンを根元まで差し込まずに途中で止めるとチャンネルスイッチONと同じ状態になり、チャンネル変更される。
このイヤホンプラグ操作に慣れればコントローラ無しにチャンネル切替設定を行えます。

5. 使用上の注意

- (1) 近くで強い電波を送信すると受信機および方探アンテナが故障する可能性があります。
トランシーバ等を送信するときは少し離れて下さい(距離限界の目安は送信1Wで約0.5m、送信10Wで約1m)
- (2) 充電電池は2000mAh程度のNiH型単三充電電池が適します。(充電電池は別売で本体に付属しません)
充電は約50mA程度の小さい電流です、使用する時間の約1.5倍の時間ACアダプタを接続して下さい。
満充電になると充電電流は漏れ電流を補充する程度の約20mAに低下します。
使い切った充電電池を充電すると初めは150mA程度の充電電流になり、更に受信中は合計約220mA。
外部電源を使用する時は、電流容量が300mA以上の電源を使用して下さい。
電池が劣化して充電電流が大きいと受信機が高温になり危険です!その時は電池を交換して下さい。
- (3) 充電できない乾電池を装着してある時はACアダプタを接続しないで下さい。
- (4) イヤホンは付属の専用イヤホンを使って下さい…ステレオ用イヤホンの片方を切断したものです。

方向探知装置
組合せの例→

430MHzの場合



方探専用アンテナ
(430MHz帯)

方探受信機(DF1R)

コントローラ
(オプション)

